

南極・北極科学館

Polar Science Museum

○徒歩でおおよそ 20 分

○多摩モルール

立川北駅→1 駅目・高松駅下車、徒歩 10 分

○立川バス

立川北口 2 番乗り場 →自治大学校・国立国語研究所または裁判所前下車で徒歩 5 分

○くるりんバス 北ルート右まわり

自治大学校・国立国語研究所または裁判所前下車で徒歩 5 分



南極・北極には地球と宇宙の不思議がいっぱい 科学の眼を通して不思議な世界をのぞいてみよう!

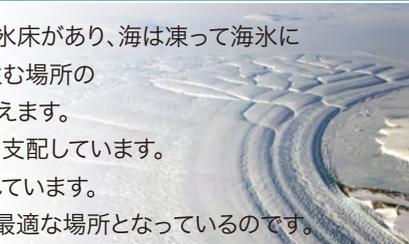
オーロラ 神秘の光の謎を探る Space and Upper Atmospheric Science

オーロラは、どこに行ったら見えるの？ 北極と南極のオーロラは同じ？
オーロラはなぜ光るの？ オーロラには不思議がいっぱいです。
オーロラは美しいだけでなく、その色、形、動きには、
宇宙のたくさんの情報が秘められています。



大気・氷 地球環境を探る Meteorology and Glaciology

南極・北極の陸上には雪が降り積もってできあがった氷床があり、海は凍って海氷におおわれています。その上に広がる大気は、私たちの住む場所の上空ともつながっていて、人間活動の影響を極域に伝えます。この氷の広がりや大気の流れは、地球の気候や環境を支配しています。さらに、氷床の内部には過去の気候や環境が記録されています。こうして極域は、現在と過去の地球環境を調べるのに最適な場所となっているのです。



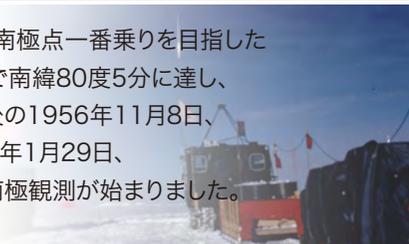
こちら昭和基地 Syowa Station

1957年東オングル島に4棟の建物を建て「昭和基地」を設立、11人が越冬して始まった当時は、トイレなどの施設もなく、山小屋同然の生活でした。半世紀を越した今、昭和基地は60棟を越す建物が建ち並び、世界有数の科学基地になりました。衛星電話、床暖房の個室、毎日入れる風呂、水洗トイレなど快適な日常生活が送れるようになりました。



歴史 南極へ History

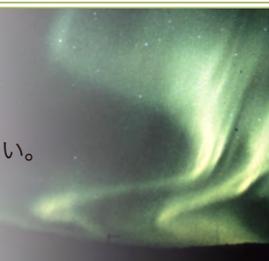
南極の探検時代、アムンセンやスコットと肩をならべ、南極点一番乗りを目指した日本人の探検家白瀬矗は、1912年1月28日、犬ぞりで南緯80度5分に達し、辺りを「大和雪原」と命名しました。白瀬隊から46年後の1956年11月8日、第1次南極地域観測隊は宗谷で南極に向かい、1957年1月29日、オングル島に上陸し付近一帯を「昭和基地」と命名。南極観測が始まりました。



オーロラシアター

Theater

オーロラシアターでは、直径4mの全天ドームスクリーンに、南極や北極圏で観測したフルカラーのオーロラ映像をその場で見ているような臨場感のあるムービーとして上映します。全天をダイナミックに乱舞するオーロラの不思議さを体感してください。この他、大型スクリーンでは、南極観測の映像も上映します。



岩石・隕石 太陽系46億年の歴史を探る

Geoscience

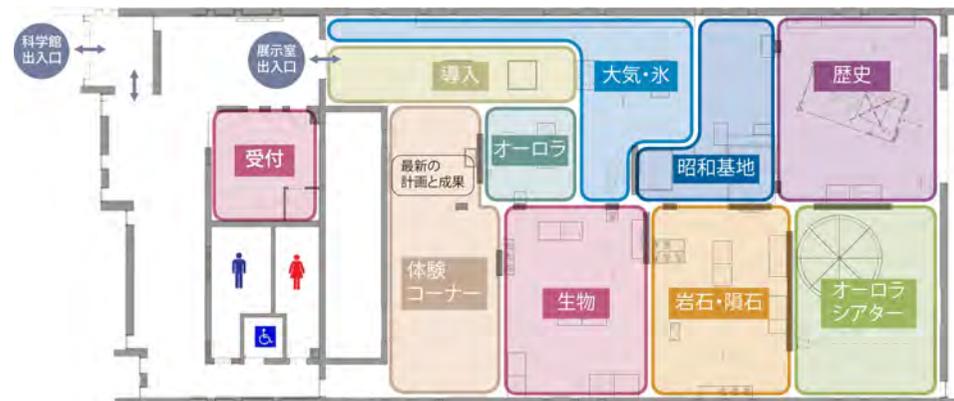
隕石は地球をつくったいわば原材料です。これらがたくさん寄り集まって、地球やほかの太陽系の惑星を造りました。隕石のほとんどは火星と木星の間にある小惑星帯から飛んできましたが、月や火星から飛んできたものも発見されました。岩石は地球で生まれたものですが、そこには地球の歴史がぎざまれています。過去いつごろにどんな変動があったのか、岩石を調べることでわかってきます。



生物 極寒の生命・生態を探る

Bioscience

極域を取り巻く海では、氷の下に成長するアイスアルジーや、それを食べるオキアミ類、さらにこれらを餌とする魚類や、海鳥、ほ乳類が、豊かな海の生態系を作っています。一方で厳しい環境にさらされる陸上露岩域では、コケや地衣類などの植物やそこに住む微小動物が、水の得られる特別な生育環境に住み着いています。様々な観測を通して見えてくる、極域の生き物の不思議に触れてみましょう。



南極・北極科学館

190 - 8518

東京都立川市緑町 10 - 3

TEL : 042 - 512 - 0720

開館時間 10 : 00 ~ 17 : 00 (入館 16 : 30 まで)

休館日 日曜日・祝日・月曜日
12月28日~1月4日

入館料 無料

アクセス JR 立川駅北口から

○徒歩でおよそ 25 分

○多摩モノレール

立川北駅→1 駅目・高松駅下車、徒歩 10 分

○立川バス

立川北口 1 番乗り場→立川市役所下車で徒歩 5 分

立川北口 2 番乗り場→自治大学校・国立国語研究所または裁判所前下車で徒歩 5 分

○くるりんバス 北ルート右まわり

立川市役所下車で徒歩 5 分

自治大学校・国立国語研究所または裁判所前下車で徒歩 5 分



この建物には環境対策が施されています。(自然採光、LED 照明、盛土による省エネ空間、緑化可能な屋上など)